

65歳以上の入居者が6割・戸山団地

僧侶が人生相談

電話でNPOと寺院連携

65歳以上の入居者が6割を占める新宿区の大規模都営団地「戸山団地」で、地元NPOが4月から寺院と連携して高齢者の悩みを聞く活動を始めた。戸山団地は高齢者世帯の半数が1人暮らし。近所付き合いが少なく1人で悩みを抱える人も多く、よむず相談の経験を持つ僧侶が気軽に話し相手になることで、孤独死や自殺をなくすのが狙いだ。

NPOは「人と人をつなぐ会」(本庄有由理事長)。約2000世帯、約2000人が暮らす戸山団地では06年以降、約50人が孤独死したとされ、住民間の交流を活性化することで孤独死ゼロを目指すとうと団地住民らが07年に設立した。

焼き手大会などのイベントを通じ交流を図るほか、携帯電話や自宅に備え付けた機器のボタンを押せばコールセンターの職員が病院の手配や生活相談に乗るサービスの実験を進めてきた。

コールセンターには「将来のことを考える」と眠れないといった悩みや「自分の葬式は誰か寺にお願いしたいか」といった相談が増え、センターでは対応しきれない内容も多かった。このため、同会が人生相談に応じてくれる機関を探したところ、真宗高田派の専修寺関東別院(大田区)が「多様な相談に乗るといふ寺本来の役割を果たしたい」と協賛を受けてくれたという。

話を聞くのは、10年ほど通じて希望を伝え、専修寺の山中俊之輪番は「自分の行くべき道は、7時まで電話で悩みを聞き、未を案じる人は多い。相談を通じて精神的な救済をしたい」と話している。「馬場直子」



戸山団地からの相談電話を受ける僧侶・大田区西六郷4の専修寺関東別院で